第２学年　国語科学習指導案

千葉市立作新小学校
指導者　林　雅己

１　単元名　くりかえしの表現に触れながら、想像を広げよう　『きつねのおきゃくさま』（２年）

～登場人物の気持ちを想像し、繰り返しのあるお話をつくろう～

２　単元の目標

○繰り返しのある表現や心情を表す言葉に気付き、楽しみながら物語文を読んだり、繰り返しのあるお話を書いたりしようとする。（国語への関心・意欲・態度）

○登場人物の気持ちについて、想像を広げながら工夫して読むことができる。（読む能力）

３　評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力
・繰り返しのある物語に触れて、登場人物の心情を想像しながら、楽しんで物語を読んだり、意欲的に日記や物語を書いたりしようとしている。	・場面の移り変わりや、登場人物の心情を表す言動について、想像を広げながら工夫して読んでいる。【読むこと(１)ウ】 ・繰り返しの表現について理解し、大事な言葉や文に注目しながら読んでいる。【読むこと(１)エ】

４　単元について

（１）単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元は、「Ｂ　書くこと」の言語活動例「ア　想像したことなどを文章に書くこと。」や、「Ｃ　読むこと」の言語活動例「ア　本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。」を具体化し、『登場人物の気持ちに注目し、場面ごとに想像を広げながら物語文を読み、くりかえしのあるお話を作る』という活動を、単元を貫く言語活動として位置付ける。

物語文は繰り返しの構造をもっていることが多い。繰り返しの表現には、同じようなことが繰り返される展開のテンポの良さだけでなく、繰り返しながら少しずつ場面の様子や登場人物の気持ちが変化していくところにおもしろさがある。そのおもしろさに触れた上で、児童自身がお話を作る活動を行い、物語文の構造理解や登場人物の気持ちの変化をとらえることができるようにしたい。

教材は、『きつねのおきゃくさま』を用いる。この教材は、「きつねの心情の二面性を描いた物語のおもしろさ」や「話の展開の意外性のおもしろさ」、「変化を伴った繰り返しの構造のおもしろさ」や「民話独特の語り口のおもしろさ」、そして「読者は知っているが、登場人物は知らないという作品のおもしろさ」など多様な論理を含んでいる。この中でも、今回は「きつねの心情の二面性を描いた物語のおもしろさ」と「変化を伴った繰り返しの構造のおもしろさ」に注目し、児童にもそれを味わわせながら読ませたい。

この単元のゴールに、繰り返しのあるお話を作る活動として、オリジナルの物語を作る活動を設定する。繰り返しの表現とそれによる変化を読み取り、それを生かし物語を書くことで、児童がしっかりと読めているかを判断したい。

また児童には、「きつねはいい性格だ」という凝り固まった考えをもたせないようにしたい。この作品について作者は、「作品は、読む方のその思考、経験、感情、感覚などで解釈するもので、「こう読んだ」「こう読めた」ということが、それぞれ正解だと思います。」と綴っている。きつねの気持ちを、繰り返しの表現の中で読み取らせていき、想像を広げ、楽しみながら繰り返しのあるお話を書かせたい。

（２）単元で身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領１学年及び２学年の「C 読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」に基づき、指導事項ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を受けて設定している。　そこで、本単元では、「きつねのおきゃくさま」における「きつね」の心情について、書かれている事柄の順序や場面の様子から考えるだけではなく、文面に表れていないところまで想像を広げ、物語文の楽しさに触れながら読み深める能力を、身に付けさせたい。

（３）（１）（２）の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

①　基礎体力をつけるための聴写・速写・音読

国語の学習の最初に国語における基礎体力を作る活動を行う。聞く体力をつけるために、聞いたことを文章に表す「聴写」や、書く体力をつけるために文章を見て速く書く「速写」、読む体力をつけるために「音読」を継続的に行っている。文学的文章で児童が最初に躓くポイントとなるのは、文章の多さであろう。国語が苦手で、文字を読むのが嫌いという児童は、文字の多さで学習する意欲を失う。最初に躓いてしまうと、物語文のおもしろさに触れる前に挫折してしまうだろう。そうならないために基礎体力作りを継続的に行うことで、おもしろさにも触れられるようになると考える。

②　朝の時間を活かした読書活動・表現活動

週５回の朝の時間のうちの１回を「朝読書の時間」とし、もう１回を「短文チャレンジ」の時間にしている。読書を継続的に行うことで、文字に対する抵抗を減らし、より文章のおもしろさに触れることができるようになると考える。また、短文チャレンジとは、身近なテーマで川柳や短作文を作る活動である。自分の思っていること、感じていることを書く活動を継続的に行うことで、表現することに対する抵抗、苦手意識を減らし、楽しむための素地を養うことができると考える。

③　隙間の時間に行う言葉のイメージマップ作り

学習の空いている時間に「言葉のイメージマップ作り」を行っている。低学年の児童は、語彙が少ない。また、語彙の少なさから、ものと言葉、言葉と言葉がつながらないことが多い。そこで児童が、自分の中で言葉と言葉がつながり、語彙も増えるようにイメージマップを作る活動を行っている。そうすることで物語において想像を広げたり、文を作るときに言葉をすらすらと思いついたりできるようになると考える。

④　毎週行う休日日記

毎週末の出来事を日記にまとめる「休日日記」を行っている。児童が自分の体験したことや思ったことを自由に書くことができる日記は、楽しんで書くことができる。今回取り扱う、日記文について、児童に直接指導できるので、その中で、いい表現や誤った表現を称賛、指摘することにより、日記文の書き方や表現の豊かさに気付いていくことができると考える。

⑤　並行読書

本単元は「繰り返しのあるお話を作ること」を目標に行っている。『きつねのおきゃくさま』だけではなく、ほかの繰り返しのあるお話を読むことで、さまざまな繰り返しの表現に触れることができる。また、ほかの物語ではどのように変化があるのかを児童が自分でとらえることができると考える。

５　児童の実態（略）

6　単元の指導計画（全１４時間）

	時	学習活動		指導や支援の手だて◇評価（評価方法）
一次（学習の見通しをもつ）	1	○「おおきなかぶ」などの繰り返しのあるお話について、「きつね」という動物の印象を挙げ、『きつねのおきゃくさま』という物語や学習内容に興味をもつ。 ○学習の流れを知り、見通しをもつ。	音読・並行読書	○単元で行うことの見通しがもてるように、続きのお話を想像させるようにする。 ○「きつね」の行動や気持ちを考えるきっかけを作るため、本文の内容に入る前に「きつね」について考えさせ、読んでから自分の考えと比較できるようにする。 ○見通しをもつことで、その時間にやるべきことを明確に把握できるようにする。 ◇学習の流れを把握し、学習の見通しをもっている。（行動観察） 【国語への関心・意欲・態度】
	2	○『きつねのおきゃくさま』の物語全文を読み、登場人物や全体の大まかな内容を捉え、初発の感想を書く。		○登場人物、主人公はだれかを考えさせながら全文を通読するように指導する。 ◇意欲的に読んだり、感想を書いたりしている。　【国語への関心・意欲・態度】
二次（本文の内容理解と心情の想像）	時間外	○『きつねのおきゃくさま』の登場人物やあらすじをとらえながら全文を音読する。（家庭学習）		○次時以降の学習内容を想起しながら音読するように声をかける。 ◇『きつねのおきゃくさま』の音読を進んで行おうとしている。（音読カード・行動観察） 【国語への関心・意欲・態度】
	3	○登場人物の確認や意味調べを行い、丸読み・グループ読み・全体読みを行う。		○他の文章との違いを確認し、独特の民話調の語り口のおもしろさに気付かせる。 ◇作品のおもしろさに触れ、楽しんで音読をしている。（音読）【国語への関心・意欲・態度】
	4	○ミニイラストカードとワークシートを使って、登場人物やそのイラストが何をしているところかをまとめ、大まかな場面の順序や様子をとらえる。		○場面の大まかな流れをとらえさせるため、小さなイラストカードを用意し、並べ替えさせたあと、イラストの説明を書かせる。 ◇意欲的に活動を行い、大まかなあらすじをとらえている。（ワークシート）　【読む能力】
	5	○縦読み学習カードを使って、繰り返しの表現（同じところ・少し違うところ）を見つける。		○同じなら青、少し違うなら赤など色で線を引かせ、繰り返しの表現を見つけさせる。 ◇繰り返しの表現を見つけている。（ノート） 【読む能力】
	6	○１の場面を整理しながら段落読みを行う。考えを整理するため、一言日記を書き、友だちと意見交流をする。		○板書しながら１の場面の様子をまとめ、「食べたい」か「守りたい」かの度合を考えてから一言日記を書くように指導する。 ◇まとめた内容からきつねの気持ちを想像しながら日記を書いている。（ノート） 【読む能力】

	7	○２の場面を整理しながら段落読みを行う。考えを整理するため、一言日記を書き、友だちと意見交流をする。	音読・並行読書	○板書しながら２の場面の様子をまとめ、「食べたい」か「守りたい」かの度合を考えてから一言日記を書くように指導する。 ◇まとめた内容からきつねの気持ちを想像しながら日記を書いている。（ノート）【読む能力】
	8	○３の場面を整理しながら段落読みを行う。考えを整理するため、一言日記を書き、友だちと意見交流をする。		○板書しながら３の場面の様子をまとめ、「食べたい」か「守りたい」かの度合を考えてから一言日記を書くように指導する。 ◇まとめた内容からきつねの気持ちを想像しながら日記を書いている。（ノート）【読む能力】
	9	○４の場面から終わりまでを逆思考で確認する。その後、一言日記を書き、１の場面と日記を比較して、気付いたことをノートにまとめる。（本時）		○ワークシートで逆思考をさせ、４の場面から終わりまでを整理しながら、きつねの気持ちを考えさせる。 ○最初の問いは指導者が伝え、そこから自問自答を繰り返させる。 ○自分の作成した日記の１の場面と４の場面の一言日記を見比べ、きつねの三匹に対する思いが変容していることをまとめる。 ◇まとめた内容からきつねの思いが変容していることに気付いている。（ノート）【読む能力】
三次（内容理解の活用とまとめ）	１０・１１	○きつねの出てくる「繰り返しのあるお話」を作る。		○繰り返しの表現を用いることや、きつねの思いの度合を考えながら書くことを指導する。 ○教科書の語り口調などをまねするように声をかける。 ◇繰り返しの表現を用い、変化をつけながらお話を書いている。（ノート）【読む能力】
	１２	○作成した物語を友だちと読み合い、感想を交流する。		○自分が書いたものと比べながら読むように声をかける。 ◇書いたものを読み合い、自分の作ったものと比べている。（ノート）【読む能力】
	１３	○まとめをし、終末の感想を書く。		○学習全体を振り返り、感想を書くように声をかける。 ◇意欲的に感想を書いている。 【国語への関心・意欲・態度】

7　本時の目標と展開

（1）本時の目標

・最初と最後の場面との比較から、きつねの気持ちの変化を読み取ることができる。（読む能力）

（2）本時の学習活動

・ワークシートを用いて逆思考し、４の場面から最後までのきつねの気持ちを考える。

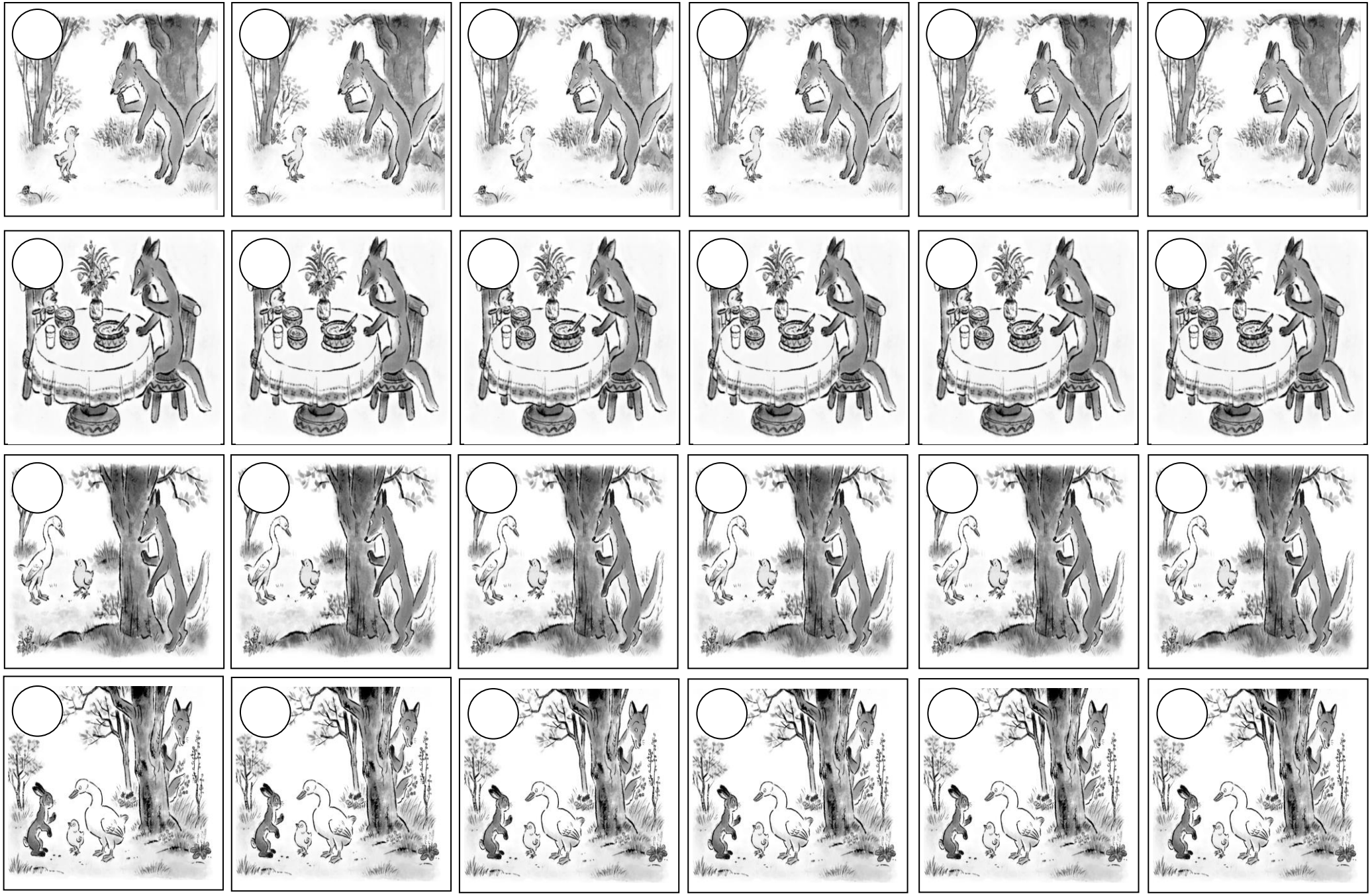
・ワークシートをもとに一言日記を作成し、１の場面と比較しながらきつねの気持ちの変化を考える。

（3）本時の展開（１３時間扱いの９時間目）

学習活動	指導の支援や手だて　◇評価
1　学習の見通しをもつ。 ○前時までの活動を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。	○学習計画表を見ながら、学習の目的とこれまでの活動でのことを想起できるようにする。
４の場面から終わりまでのきつねの気持ちを読み取ろう	
2　４の場面から終わりまでを音読する。	○学習する内容がどこなのかを確認できるようにする。
3　ワークシートを用いて逆思考し、きつねの気持ちや場面の様子を整理する。 ○おおかみの登場からお墓を作るところまでの出来事をワークシートにまとめる。 ○きつねの気持ちにも触れ、黒板上でまとめる。 「どうしてきつねは戦ったの？」 『３匹を守りたかったから』 「なんで守りたかったの？」 『食べたかったから』『三匹が大切だったから』… （以下問いを繰り返していく。）	○縦読み学習カードや逆思考でまとめたことをもとに場面の様子を確認させる。 ・きつねの気持ちの二面性をとらえられるように児童の発言を促す。 ・最初の問いは指導者が伝え、そこから自問自答を繰り返させる。
4　きつねの気持ちになって一言日記を書く。 ○きつねの「食べたい」と「守りたい」度合を決めて、全体で確認してから日記を書く。	○日記ワークシートのハートマークに、度合を記入させた上、板書、逆思考のワークシートなどを参考にして記入するように指導する。
5　１の場面の日記と読み比べて、気付いたことをノートにまとめる。 ○きつねの気持ちの移り変わりを中心に、変わっているところをノートに書く。 ・最初は食べたい気持ちが強いのに、だんだん守りたいに変わっている。 ・会ったときは食べたくて育てているけど、今は大切だから守っている。	○気持ちの度合や、発言の内容などに注目できるように指導する。
6　本時の学習を振り返り、次時の活動を確認する。	○きつねの気持ちが移り変わりに再度触れ、どんな繰り返しのお話を想像させ、興味を向けさせる。

８　参考文献

○　あまん　きみこ『きつねのおきゃくさま』教育出版　（教科書教材）
○　教師用指導書　『ひろがる言葉　小学国語２上』　教育出版
○　府川源一郎編　『学習スキル　１０１の方法』教育出版
○　弥延　浩史著　『話す力・書く力をぐんぐん高めるレシピ５０』　明治図書
○　白石範孝編著　『物語の授業』　東洋間出版社
○　白石範孝著　　『言語力を育む逆思考の読み』　学事出版株式会社
○　白石範孝編著　『３段階で読む新しい国語授業』　文溪堂



きつねのおきゃくさま

名前（　　）

（イラスト）

（イラストの　ようすの　せつめい）

食べたい♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡								

食べたい♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡								

名前（　　）

きつねの　おきゃくさま

あまん きみこ 文
ふたまた えいごろう 絵

名前（　　）

むかし　むかし、あったとさ。

はらぺこきつねが　歩いて　いると、やせた　ひよこが　やって　きた。がぶりと　やろうと　思ったが、やせて　いるので考えた。太らせてから　たべようと。

そうとも。よく　ある、よく　ある　ことさ。

「やあ、ひよこ。」

「やあ、きつねお兄ちゃん。」

「お兄ちゃん？　やめて　くれよ。」

きつねは、ぶるると　みぶるいした。

でも、ひよこは　目を　丸く　して　言った。

「ねえ、お兄ちゃん。どこかに　いい　すみか、ないかなあ。こまってるんだ。」

きつねは、心の　中で　にやりと　わらった。

「よし　よし、おれの　うちに来なよ。」

すると、ひよこが　言ったとさ。

「きつねお兄ちゃんって、やさしいねえ。」

「やさしい？　やめて　くれったら、そんな　せりふ。」

でも、きつねは、生まれて　はじめて「やさしい」なんて　言われたので、すこし　ぼうっと　なった。

ひよこを　つれて　かえる　とちゅう、

「おっとっと、おちつけ　おちつけ。」

切りかぶに　つまずいて、ころびそうに　なったとさ。

きつねは、ひよこに、それは　やさしく　たべさせた。そして、ひよこが「やさしい　お兄ちゃん」と　言うと、ぼうっとなった。

ひよこは、まるまる　太って　きたぜ。

ある　日、ひよこが、さんぽに　行きたいと　言い出した。
――はあん。にげる　気かな。
きつねは、そうっと　ついて　いった。
ひよこが　春の　歌なんか　歌いながら　歩いて　いると、やせた
あひるが　やって　きたとさ。
「やあ、ひよこ。どこかに　いいすみかは　ないかなあ。こまって
てるんだ。」
「あるわよ。きつねお兄ちゃんちょ。あたしと　いっしょに　行
きましょ。」
「きつね？　とうんでもない。がぶりと　やられるよ。」
と、あひるが　言うと、ひよこは　くびを　ふった。
「ううん。きつねお兄ちゃんは、とっても　親切なの。」
それを　かげで　聞いた　きつねは、うっとりした。そして、
「親切な　きつね」と　いう　言葉を、五回も　つぶやいたと
さ。
さあ、そこで　いそいで　うちに　かえると、まって　いた。
きつねは、ひよこと　あひるに、それは　親切だった。そし
て、二人が「親切な　お兄ちゃん」の　話を　して　いるの
を　聞くと、ぼうっと　なった。
あひるも、まるまる　太って　きたぜ。

ある　日、ひよこと　あひるが、さんぽに　行きたいと　言い出した。

――はあん。にげる　気かな。

きつねは、そうっと　ついていった。

ひよこと　あひるが　夏の歌なんか　歌いながら　歩いていると、やせた　うさぎが　やって　きたとさ。

「やあ、ひよこと　あひる。どこかに　いい　すみかは　ないかなあ。こまってるんだ。」

「あるわよ。きつねお兄ちゃんちよ。あたしたちと　いっしょに　行きましょ。」

「きつねだって？　とうんでもない。がぶりと　やられるぜ。」

「ううん。きつねお兄ちゃんは、かみさまみたいなんだよ。」

それを　かげで　聞いた　きつねは、うっとりして、きぜつしそうに　なったとさ。

そこで、きつねは、ひよこと　あひると　うさぎを、そうとも、かみさまみたいに　そだてた。そして、三人が　「かみさまみたいな　お兄ちゃん」の　話を　して　いると、ぼうっとなった。

うさぎも、まるまる　太って　きたぜ。

ある　日。くろくも山の　おおかみが　下りて　きたとさ。
「こりゃ、うまそうな　においだねえ。ふん　ふん、ひよこに、あひるに、うさぎだな。」
「いや、まだ　いるぞ。きつねが　いるぞ。」
言うなり、きつねは　とび出した。
きつねの　からだに、ゆうきが　りんりんと　わいた。
おお、たたかったとも、たたかったとも。
じつに、じつに、いさましかったぜ。
そして、おおかみは、とうとう　にげて　いったとさ。

その　ばん。
きつねは、はずかしそうに　わらって　しんだ。

まるまる　太った、ひよこと　あひると　うさぎは、にじの森に、小さい　おはかを　作った。
そして、せかい一　やさしい、親切な、かみさまみたいな、そのうえ　ゆうかんな　きつねの　ために、なみだを　ながしたとさ。

とっぴん　ぱらりの　ぷう。

さかさ読みワークシート

名前（　　）

◎お話のだい名〔　　〕

おわりのはしら：　はずかしそうに　わらって　しんだ。